

# 光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2021年11月号>

173号 2021.11.01 配信

例年より夏の暑さが続くように思っていましたが、一気に、コートの子節が巡って来ました。学内のモミジバフウも色づき始め、すっかり秋の景色です。「つたのからまるチャペルで～♪」で代表される学生時代、令和の昭和女子大学の学生さんには、このモミジバフウが秋の思い出として残っていくような気がします。



## ■同窓会だより

### ◆校祖の墓、恩師の墓、同窓の墓への供花

光葉同窓会では世田谷区若林にある松陰神社に定期的に墓参しております。11月9日には学園として墓前祭も行われます

### ◆第29回 秋桜祭 (11月13日・14日)

今年度秋桜祭はオンラインと一部対面を並行したハイブリッド形式での開催を予定しています。対面参加(大学来校)には事前予約が必要です。

大学HPからお申し込みください。(各日先着3000人:定員に達し次第終了)

売上げを奨学金に充てている同窓会バザーは開催できませんが、以下の3つの方法で参加します。

①YouTube配信 「光葉同窓会奨学金について」

②ライブ配信 11月13日(土) 11:00~11:15 8号館6階コスモスホール

光葉ワーキングネットワーク委員と2020年に卒業し、社会人として飛び立ったばかりの若いメンバーが対談形式で「学生へのエール」を送ります。

③学内展示 3号館1階教室 「光葉同窓会を支えた方々」

## ■学園だより

### ◆墓前祭 11月9日(火) 11:00~

### ◆令和3年11月13日、14日に学園祭が開催されます。(大学HPより)

昭和女子大学は、学園祭「秋桜(コスモス)祭」を11月13日(土)、14日(日)に対面・リアルタイム配信・収録動画配信などを組み合わせたハイブリッド形式で開催します。

※新型コロナウイルス感染状況によってはオンライン配信に変更します。

「Breakthrough」:今年のテーマは「先が予測できない状況下でよりパワーアップした秋桜祭を創りたい」「今だから、私たちだからできる事を模索しつつ秋桜祭の新しいかたちを追求したい」という意志を込め、切り拓く・打破という意味がある「Breakthrough」としました。

### ◆博物館からのお知らせ

秋の特別展「被爆者の足跡 一被団協関連文書の歴史的研究から一」

2021年10月23日(土)~11月27日(土)

昭和女子大学「戦後史料を後世に伝えるプロジェクト一被団協関連文書一」の学生たちが日本被団協関連文書の整理や聞き取り調査等の活動を通じた歴史的研究から明らかにしてきた被爆者の足跡を紹介しています。



## ■広げよう光の葉

杉田 智子 さん

1975年 文家政学部 生活美学科卒

コロナ禍の4月、卒業してから46年後に母校の入学式に院生として参列させていただきました。昭和女子大学は高等部・大学と7年間通った母校であります。私は高等部時代、船橋の叔父の家から通学しておりましたので、渋谷から玉電に乗り通っておりました。玉電は昭和44年に廃止となり、その後首都高速道路と地下鉄の工事が始まり、その完成を見ないまま大学の卒業を迎えました。久しぶりの構内入ると高等部と短大の校舎そして体育館、校庭は私の在校時と全く変わっていませんでした。先日、マンドリンクラブ顧問の比護和子先生にお会いすることができ、とても懐かしく感慨深いひと時でした。

昨年の10月頃、息子が新聞記事に母校が社会人コースに1年制の経営大学院を開設するという記事を見つけました。「学問に年齢は関係ないよ。」の言葉に背中を押され、今までの私の知識や経験をもう一度学び直しの時間に当てたいと思い、受験致しました。

私は現在、社会福祉法人を2004年に設立し、介護福祉施設を経営しています。初代理事長である父は大正13年に命を受け、千葉大学医学部を卒業。（その間、学徒出陣で召集され、そのまま終戦を迎える）その後、片田舎の町で医院を開院し、約53年間地域医療に貢献して参りました。また、戦国武将「武田信玄」の末裔として、「戦国大名 房総武田氏と信玄」を出版し、執筆家としても活動して参りました。時は過ぎ2000年に介護保険制度が発足しました。町は少子高齢化が進み高齢者が多くなっていました。そこで父は考えました。医療のみならず福祉でもこの町に貢献できないかと。父は、即行動に移します。自身の医院の患者を抱えながら社会福祉法人設立に奔走します。しかし、設立には莫大な書類処理と様々な機関とのやり取りが生じます。悪戦苦闘しながらも、私たち夫婦と協力しながら、社会福祉法人を設立することが出来ました。3年の月日が経っていました。それを見届けるように父は竣工式の3日前に病に倒れましたが、その遺志は現理事長である私や孫に引き継がれています。

私は3人の子育てをしながら父の仕事を手伝い、子供たちを医師・看護師・法人役員に育てました。女性が働きながら子供を育てるには、まだまだ難しい時代でした。（今もそうですが）義母は来月95歳を迎えます。今でも家でも「介護」、外でも「介護」を実践しています。

2025年には団塊の世代が全て75歳以上となり、後期高齢者が2000万人を突破することが見込まれています。少子高齢化の日本では労働生産人口の減少がすでに様々な企業を苦しめています。介護業界は、流動性のある市場で職員の確保が問題になっています。その中でも女性職員の比重が極めて高い職場があります。私の施設でも女性が80%、男性が20%です。女性が育児と仕事を両立するためには経営者側の考え方も変えなくてはなりません。育児休暇、看護休暇、短時間勤務等の支援制度の制定そして、一昨年、企業主導型保育園を開設することが出来ました。これからも大学院で学んだ知識や学問を駆使し、「世の光となろう」となるように邁進してまいりたいと思います。

現職業 社会福祉法人信和会 理事長

【End】